



令和7年度 静岡県養護教諭研究会冬季研修会

令和7年12月18日(木) 静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ



あいさつ 静岡県養護教諭研究会 顧問校長 金野 教之



重大事案発生時には、養護教諭任せにせず、全職員が役割を理解し、学校組織として「本当に現場で動ける体制づくり」が整っているかが重要である。養護教諭は一人職として大きな影響力を持ち、学校を牽引する存在としての自覚と誇りが求められる。今回の研修を通して、子どもたちの命と安全を守るための実践的な学びを深め、次年度に向けた体制整備につなげていくことを期待している。

あいさつ 静岡県養護教諭研究会 会長 中島 由紀江

会員から、救急処置に関する研修への要望が高いことを受け、今期の実践事例集「学校組織で取り組む危機管理 Part II」を作成した。本研修会が、実践事例集19の有効活用につながり、参加者一人ひとりにとって実りある学びの場となることを願っている。



講演 知って、防ごう、学校・園での事故 子どもたちの元気な笑顔を守るために

講師 日本スポーツ振興センター 名古屋業務推進課長 別所 敬之 氏

JSC(日本スポーツ振興センター)ホームページで発信している最新の事故防止資料をはじめ、遊具事故や突然死、外傷等をテーマとした動画教材、低学年向けのクイズ形式で学べる遊具事故防止動画の活用をぜひお願いしたい。また、熱中症予防サイトや過去の死亡・障害事例の統計データを活用し、教員や子供たちの安全意識を高め、事故防止につなげて欲しい。



JSC 災害共済給付 Web⇒



講演 重大事故、そのとき先生方は動けますか？

講師 国際救急法研究所 理事長 宇田川 規夫 氏



<講師の紹介>

- ・国際救急法研究所 理事長
- ・内閣府防災ボランティア活動検討委員
- ・認定 NPO 法人ゆめ風基金副代表



学校全体で安全力を高めるために

養護教諭として
積極的な発信を

「あなたの力」はどのくらい？

1. マネジメントスキルを磨く(コミュニケーションスキル、リーダーシップ、状況ふかん力、相互支援能力)
2. 担任の負担を理解して、上手に発信する
3. 養護教諭の職務への理解者を増やす(特に管理職や安全担当主任など)
4. タフネゴシエーター(困難な状況でも結果を出すための粘り強さや戦略性をもつ交渉人)となる

学校安全確立のために



1 事故実態を知る（JSC統計等から）

2 実態に合わせた実際に動ける訓練をする

- ・シナリオ型訓練は必須
- ・自分の学校を舞台に具体的な設定をする

3 普段から当事者意識を高める・子供たちの安全意識を高める

○ 教員への啓発

1. 学校事故解説パンフの発行
事故への想像力、自分たちの指導法に事故へつながる部分がないかを自覚してもらう
2. 安全研修ができる雰囲気を作る
3. 保健室は後始末機関ではないことを理解してもらう

○ 児童・生徒への啓発

1. 事故情報を知らせる
同年代に起きた事故を知ってもらい、わが身を振り返らせる
2. 伝達方法に工夫を凝らす
保健委員会の児童生徒の知恵、テレビ保健室開設など

【養護教諭実践事例集 19

学校組織で取り組む「危機管理」Part IIに掲載の資料の実物】

「攻めの保健室」へつながる
出動セットの用意を スーパーのかこが最適



事例集 19 p84参照

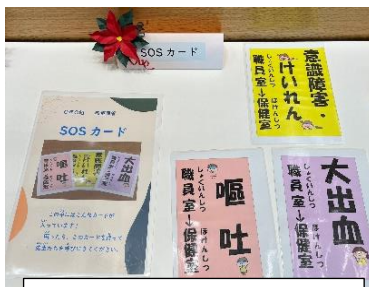
ブルーシート、ガムテープ

手袋（複数）、滅菌ガーゼ、ガーゼ、ハサミ
止血用タオル（複数、ハンドタオルのような物が適当）

たたみ三角巾（複数）、伸縮包帯（各サイズ）、弾性包帯

救急絆創膏（各サイズ）、サージカルテープ、
ワセリン、軟膏用へら

保温具（毛布 1 枚）



事例集 19 p85 参照



事例集 19 p89 参照

頭部打撲と脳震盪への対応

脳圧亢進の理解

頭蓋骨内は脳・血液・髄液で満たされており、出血が起きると脳全体が圧迫される。そのため、頭痛だけでなく、必ず意識障害や嘔吐など他の随伴症状が出る。

嘔吐の捉え方

嘔吐単独で危険度を判断せず、意識、脈拍、頭痛などの兆候の変化をしっかりと観察すること。

脳震盪とセカンドインパクト

脳震盪は脳の神経回路の混線。回復前に再び衝撃を受けると命に関わるため、スマホやゲームの中止を含めた脳の安静を徹底させる。

意識の清明期

受傷直後ははっきりしていても、数時間後に急変する「急性硬膜外血腫」の可能性を念頭に置き、観察記録を残しておく。

保護者連絡カード・チェックリスト（頭部・頸部）				頭を動かさず症状確認・応援要請	
組 名前	年 組 氏名				
来室日時	年 月 日 () 時 分ごろ				
問 診	いつ	時 分頃 (体育 ・ 部活動 ・ 休み時間 ・)			
	どこで	運動場 ・ 体育館 ・ 教室 ・ その他 ()			
	何を	＊頭部への外力のかり方、方向、程度等。周囲からの情報があれば記載			
	部位	＊傷の長さ・腫れ			
時間経過	基準値	時 分	時 分	時 分	救急車要請基準（1つ以上）
嘔吐	2回まで				・ 3回以上の嘔吐あり
めまい	なし				・ めまいあり
頭痛	経過と共に強まる				・ 時間経過で増強する頭痛
首痛・圧痛	なし				・ 負傷箇所以外の頭痛

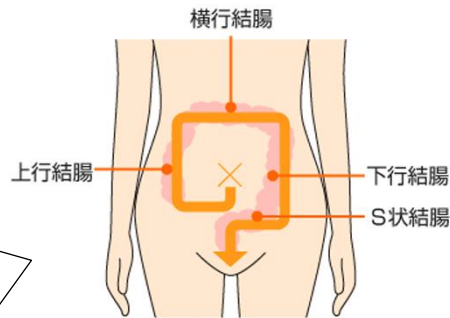
資料：頭部外傷観察表の一部だよ



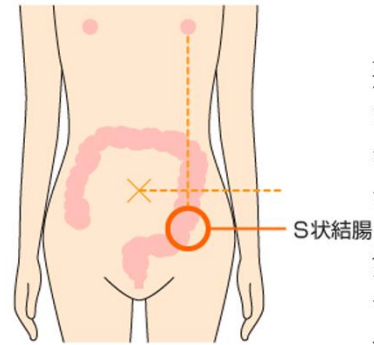
腹痛への対応

触診のコツ

膝を立てて腹筋を緩め、顔色を見ながら「の」の字を書くように圧迫する。指先だけでなく、適切な深さまで押して内部を確認する。



● まずは[の]の字にマッサージ



● 次にS状結腸を押す

自分のおなかを押して必要な強さを確認してみよう

ブツがたまっている場所
恥ずかしがったら自分でやらせてみる

38

危険なサイン

歩くときに響くのを嫌がって「そろりそろり」と歩く場合は炎症の疑いが強い。反跳痛や筋性防御のチェックをする。

隠れた原因

10代特有の悩みとして、生理痛、子宮外妊娠、さらには男子特有の精巣捻転の可能性も考慮し、本人に患部を触らせて確認させるなど工夫が必要。

養護教諭の役割



血圧計、体温計、パルスオキシメーターはバイタルサインをとるのに必要な機器だね。データをとって蓄積していこうね！

観察力の蓄積

普段から子供をよく観察し「いつもと様子が違う」という直感を大切にする。血圧計やパルスオキシメーターなど数値を記録し、病院での診断結果と照らし合わせて自分の判断力を養う。

生活指導

腸脳相関に基づき、食物繊維や発酵食品を摂る食事指導や体を冷やさないための服装指導など、担任と連携して生活全般に目配りする。

情報提供

生理痛に悩む生徒には低用量ピルの選択肢や通いやすい婦人科の情報を提供し、自分の体に関心を持たせるきっかけを作る。

実技研修①

出血時の手当



混乱の中でも「命を守るための処置」を最優先に判断！

○ガラス等異物への対応

異物が刺さっている場合は、**抜かず**に**固定**する。目に見えない物を探すより**止血が優先**。

直接圧迫止血法

- 清潔で吸収力のある生理用ナプキンを傷に埋め込み、三角巾で固定する方法が有効

間接圧迫止血法

- 不適切な圧迫は出血を返って悪化させる。
- 救急車を待つ間は、バイタルチェック(特に**脈拍の変化の観察**)を行う。
- ※機器での計測ではなく指先で触れる触診を重視。



実技研修②

骨折時の手当

保健室で確認できる異常に対し、適切に処置するためには？

- ・痛みを最小限に衣服を取り除き、患部の全貌を確認する。

脱健着患：健康な側から脱がせ、患部側から着せる。

無理な場合は迷わず、衣服を切る勇気も必要。

- ・骨折を疑う根拠は？ ➡ **変色・腫れ・痛み**がある

観察・触診・介達痛検査をもとに判断

- ・骨折の手当：骨折の部位の上下の関節を固定する。

シーネの代用となる新聞紙を使った固定➡厚みを持たせ強度を出す。



患者を励まし
続けよう



「勉強は続くよ いつまでも・・・」

学校安全を作るには、皆さんの声が届くような理解者や仲間を増やすという努力が必要。この事例集はとても素晴らしい成果物。一人職の養護教諭の職務は十分理解されているとは言い難い。保健室からの情報発信は、方法を工夫して行っていく努力をしなければいけない。情報発信をしていくためには基本は勉強。養護教諭として、五感をフルに働かせて観察とコミュニケーションを行い、子供たちが安全で楽しい学校生活を送れるように、サポートしてほしい。



指導講評 岡山大学 元教授 田嶋 八千代 氏

子供の命や健康を守ることができずに学校保健、学校安全はありえない。自分自身が行った対応や指導がどのような根拠をもって行ったか、自分自身で理解をすることが自信につながる。危機を予見する能力、情報収集能力をもつ養護教諭、事例を自校の実態に合わせ、実際に起こった時にどのような対応ができるのか確認していただきたい。そして、校内研修にて実際に演習を行うことが、危機管理意識の向上に効果的であるため、ぜひ取り組んでいただきたい。



お礼の言葉 静岡県養護教諭研究会 副会長 秋澤 真里

養護教諭に求められるのは、データだけに頼るのではなく、子供の様子を五感で感じ取り、異変に気づく力である。危機対応は、決して養護教諭一人で完結できるものではなく、関係教職員全員で連携していくことが必須である。日常のコミュニケーションの積み重ねこそが、迅速で、的確な危機対応に繋がり、重大事故を未然に防ぐ第一歩になるのだと、改めて認識することができた。本日の研修を契機に、学校全体で危機管理に取り組む一歩を踏み出していきたい。



参加者の感想

自分の体を大切にすることを子供たちに繰り返し伝えていきたいと思った。行動変容につながる伝え方を工夫したい。

子供たちが楽しく、自分事として学べるように紹介していただいた遊具事故防止の動画やクイズを保健指導に活用していきたい。

根拠をもって子供をアセスメントするために、バイタルサインを必ず測定し、データを蓄積することを心がけていきたい。



生理用ナプキンを傷口に埋め込む止血、ストレッチテープでの止血や患部の固定、毛布と物干し竿を使った担架での運搬など、身近なものを活用した手当が大変参考になった。

骨折の判断では、垂直方向への叩打による介達痛の有無の確認など、根拠に基づいた観察を学ぶことができた。次回から正確な手技を実践する自信がついた。